

# 第18期定時株主総会

株式会社新生銀行  
2018年6月20日



# 事業報告

Fiscal Year 2017  
Financial Results

# 連結業績：総括

(単位：億円)

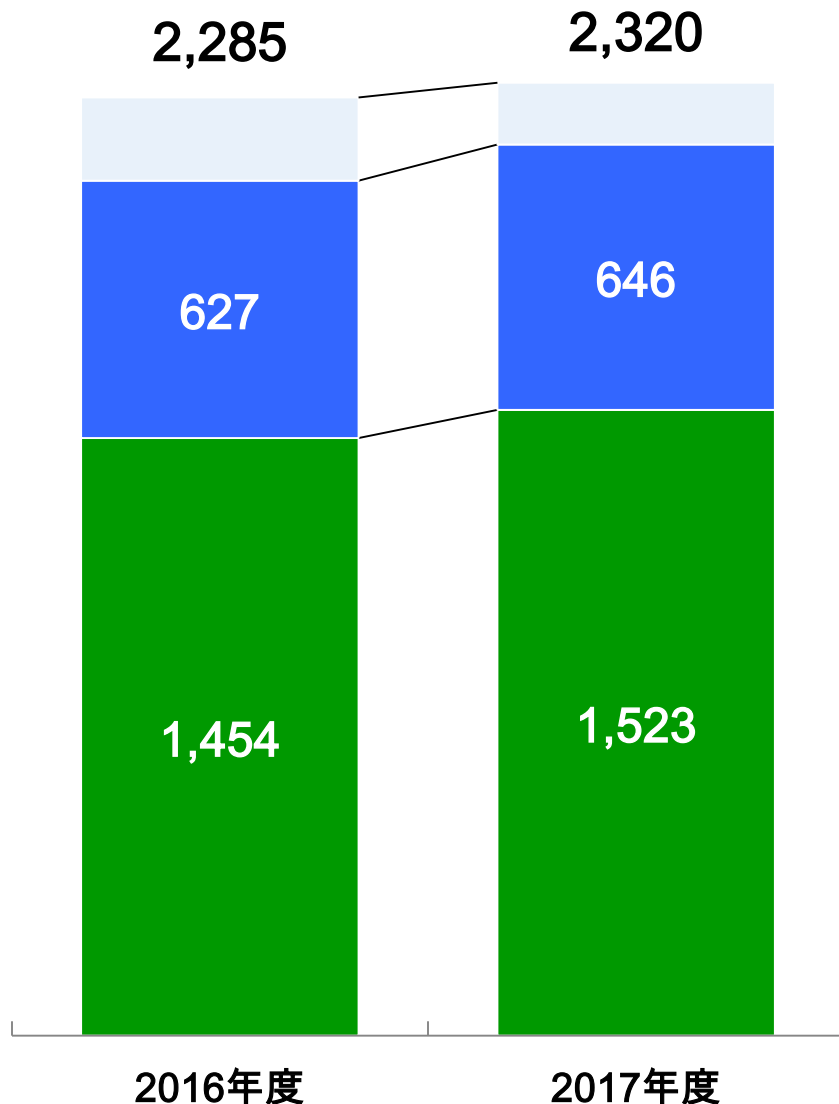
【連結】	2017年度	前年比 +:改善 / -:悪化
業務粗利益	2,320	+2%
経費	-1,425	-0%
実質業務純益	894	+4%
与信関連費用	-372	-17%
その他	-7	+79%
親会社株主に帰属する当期純利益	514	+1%

期末配当

1株当たり10円

# 連結業績：業務粗利益

(単位：億円)



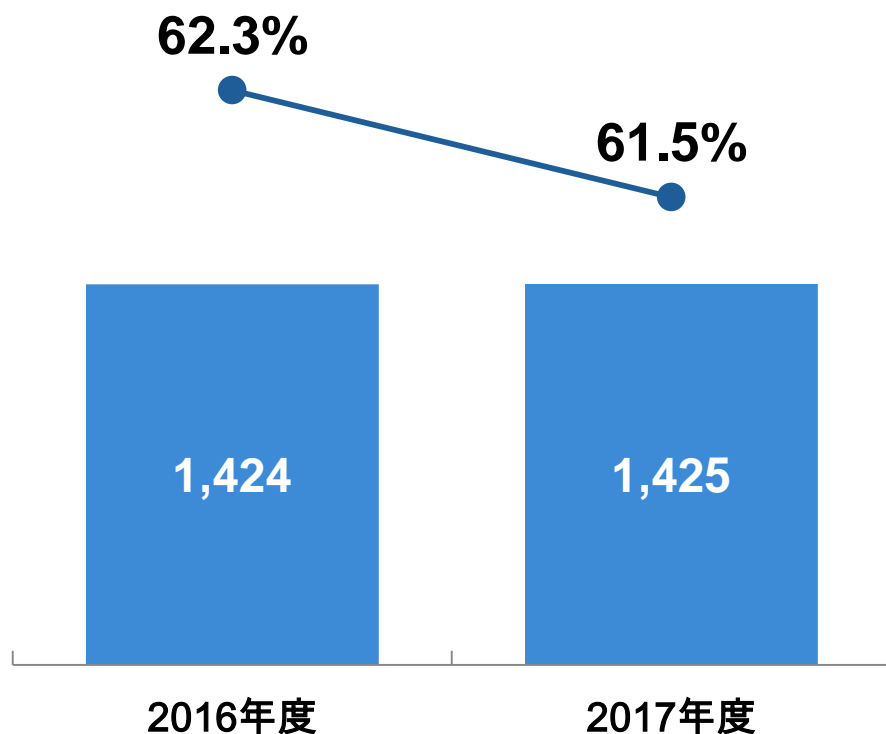
- **法人業務：646億円  
(18億円増)**
  - ◆ 手数料の増加、保有株式の売却などが寄与
- **個人業務：1,523億円  
(68億円増)**
  - ◆ 無担保カードローンをはじめとした消費者金融業務の貸出残高の伸長が寄与

# 連結業績：費用

(単位：億円)

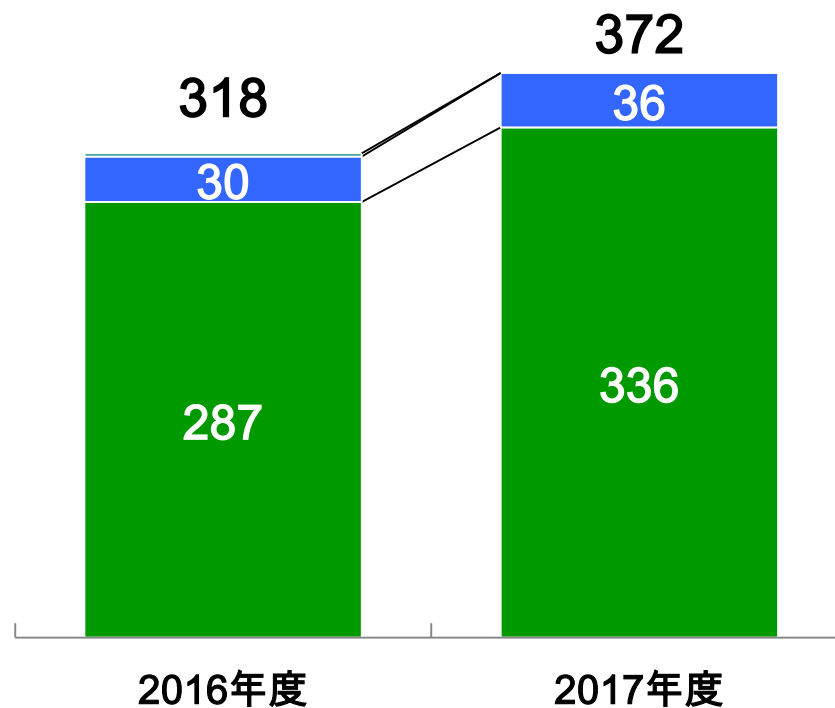
## 経費

- 経費率は改善
- 生産性改革効果で、経費横ばい



## 与信関連費用

- 法人業務は、個別貸倒引当金の繰入を主因に増加
- 個人業務は、コンシューマーファイナンスの貸出増加に伴い増加

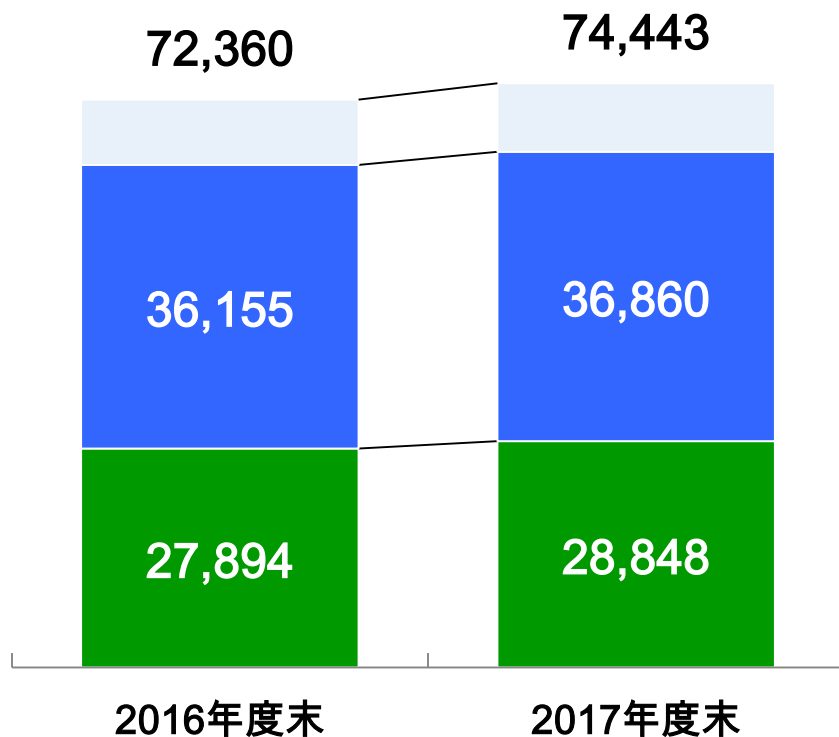


# 連結業績：バランスシート

(単位：億円)

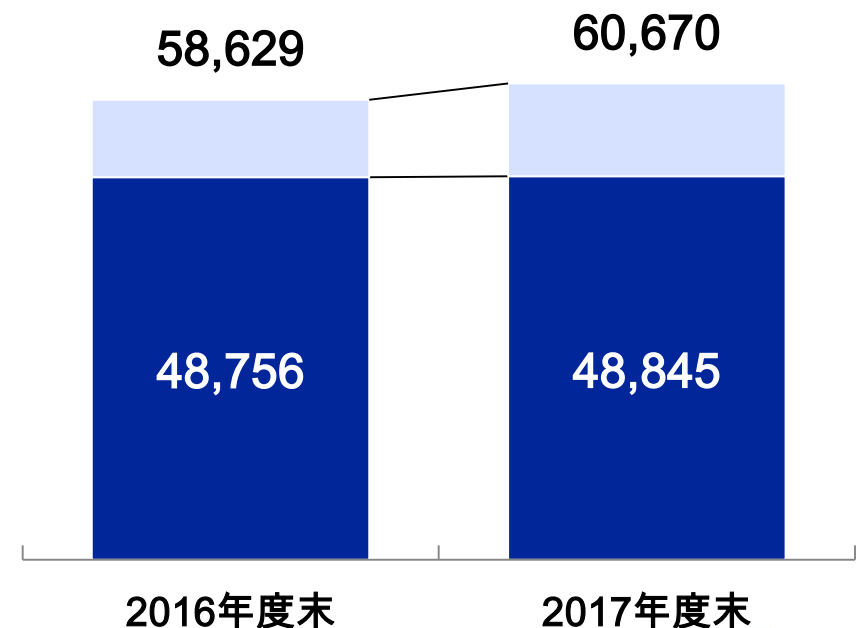
## 営業性資産

- 法人業務は、ストラクチャードファイナンスで残高増加
- 個人業務は、コンシューマーファイナンスで残高増加



## 預金・譲渡性預金

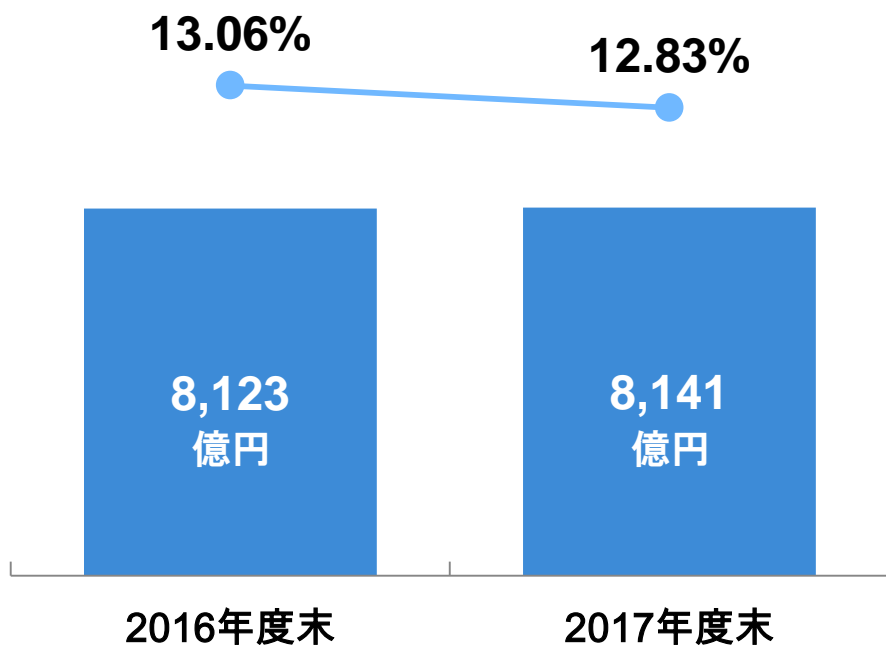
- 安定的な個人預金が、預金全体の8割を占める



# 連結業績：自己資本、一株価値

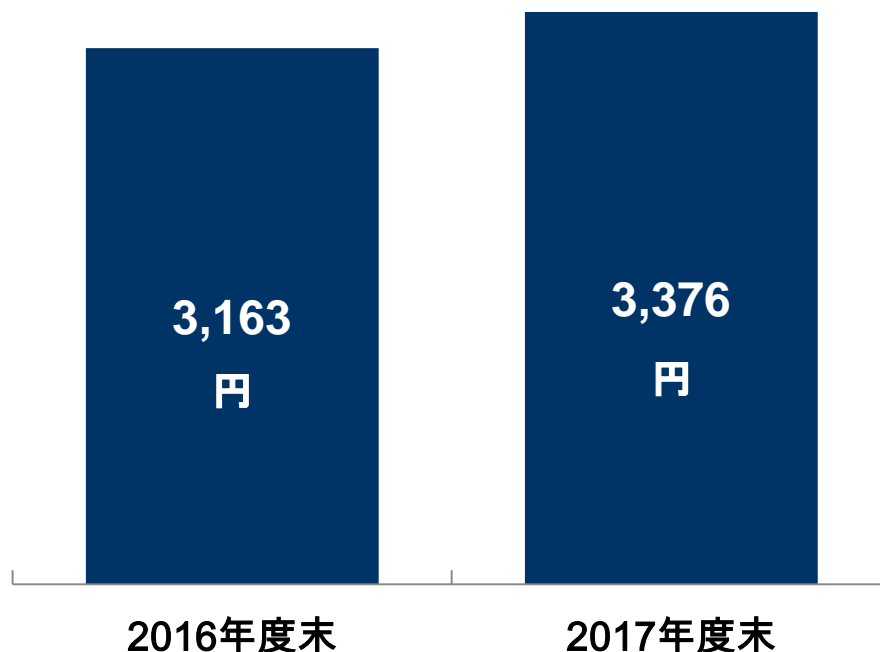
## 自己資本

- コア自己資本比率は十分な水準を確保
- 自己資本額は着実に増加

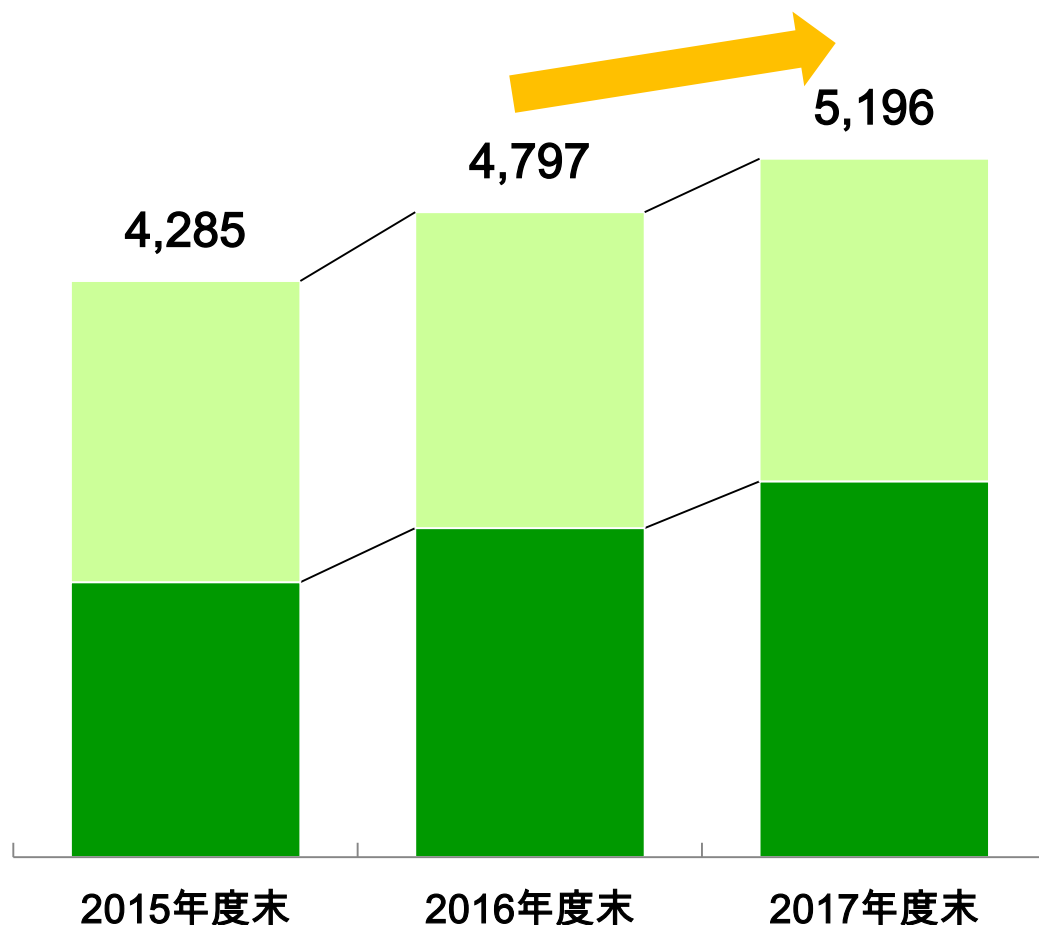


## 1株当たりの純資産 (BPS)

- 利益の蓄積と自己株式取得により、BPSは改善



## 無担保カードローン



無担保カードローン残高は、  
年率8%増加

- 「新生銀行カードローン  
レイク」の残高増加が牽引



# ビジネス：成長分野

2017年度

2018年度～

無担保  
カードローン

- ✓ 「レイクALSA」を中心として新規顧客獲得と残高増加

**レイクALSA**

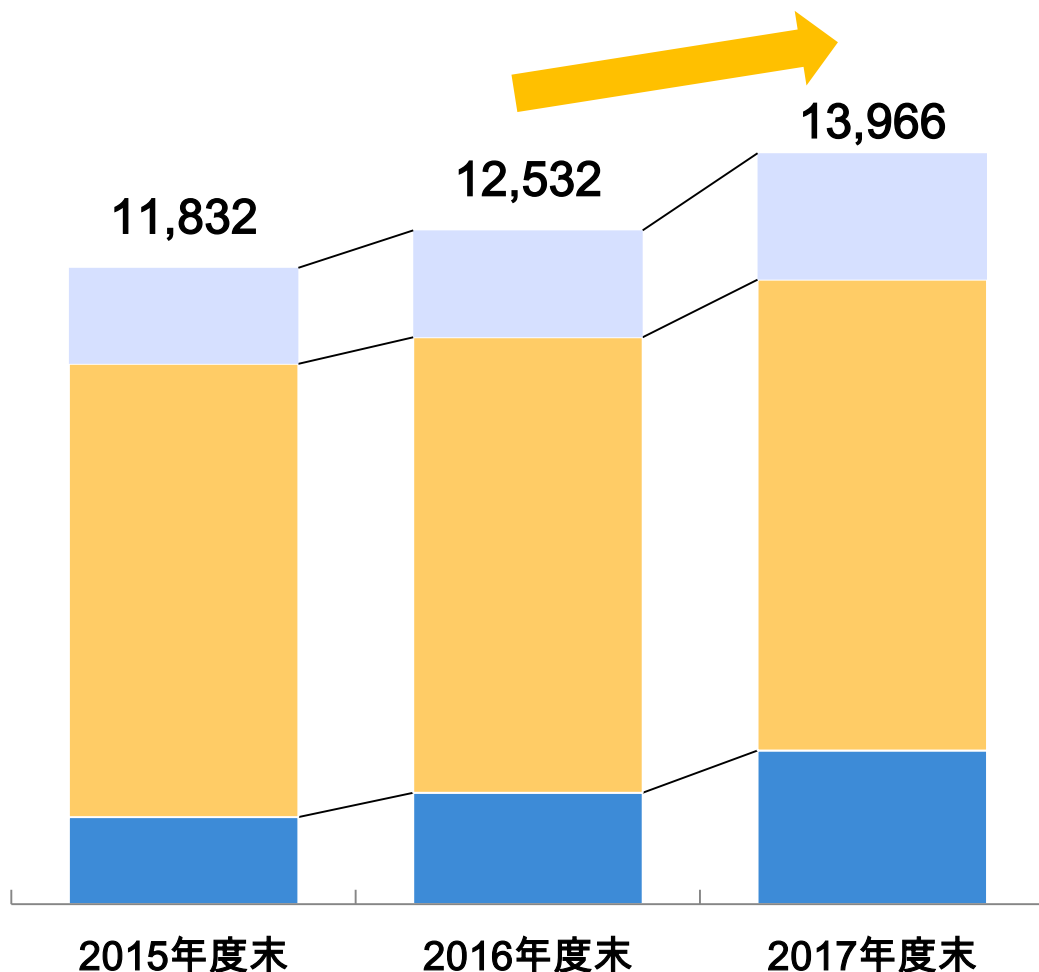
- ✓ デジタル技術を活用した、マーケティングの高度化、与信回収の高度化、オペレーションコストの最適化
- ✓ アジアでの更なる成長機会の追求

- ✓ 対象顧客セグメントに応じた事業戦略の見直し
- ✓ ビッグデータと機械学習技術を組み合わせたAIスコアの開発
- ✓ ベトナムでのコンシューマーファイナンス事業の立ち上げ

# ビジネス：成長分野

(単位：億円)

## ストラクチャードファイナンス



ストラクチャードファイナンスの残高は、年率11%増加

- 不動産ファイナンスの残高はやや増加
- プロジェクトファイナンスの残高は順調に増加

# ビジネス：成長分野

2017年度

2018年度～

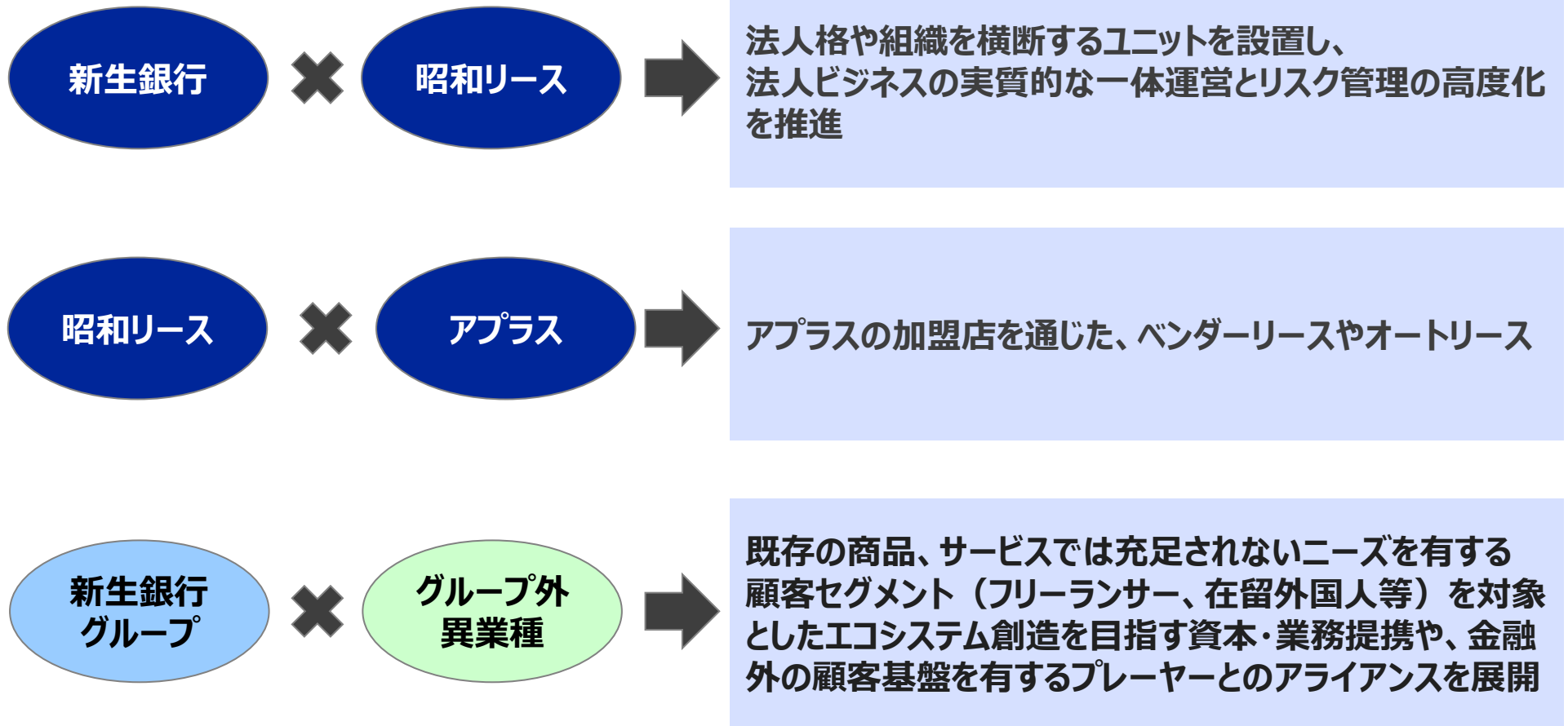
ストラクチャード  
ファイナンス

- ✓ 風力、バイオマス、火力など電源の多様化
- ✓ 私募ファンドや上場インフラファンドへの融資など取組案件の多様化

- ✓ 国内トップクラスの案件組成力や顧客基盤を活かした、協調融資などを推進

# 戦略：業態をまたいだビジネスの融合

お客さまの真のニーズに基づき、既存の枠を超えた  
新しいビジネスを創出する



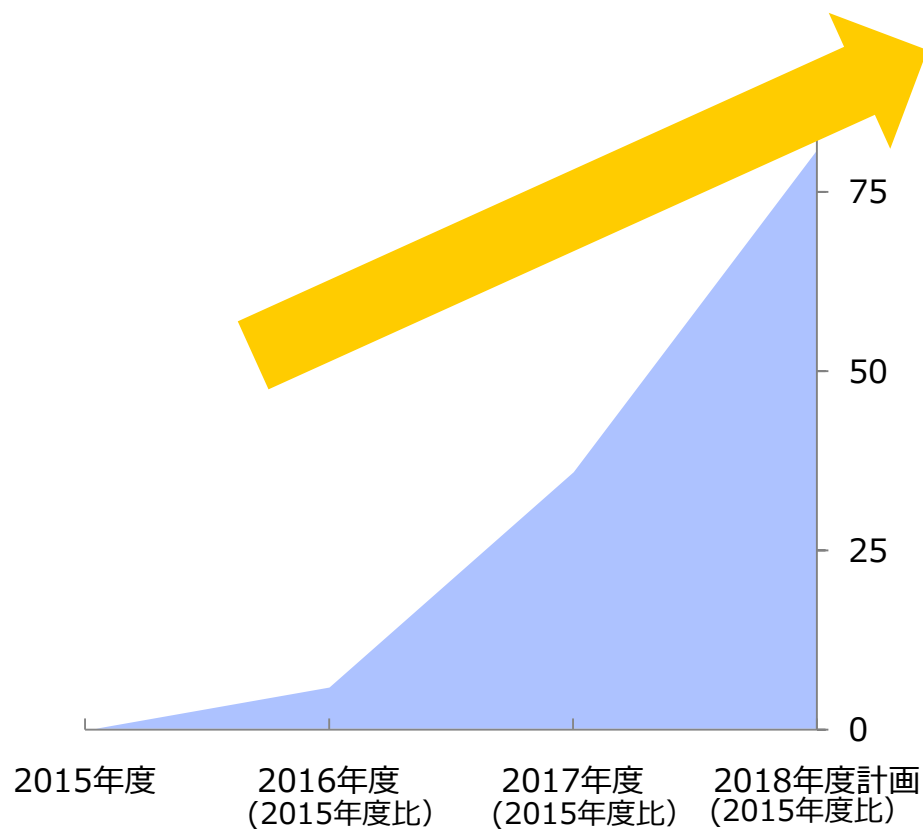
# 戦略：生産性改革

(単位：億円)

管理機能の統合によるオペレーションの効率化の追求と  
全面的な生産性向上を狙う

## 生産性改革プロジェクト効果

## 具体的な取り組み



- 本社間接機能や事務機能を中心に、集約化による効率化と高度化
- フロント業務を中心に、ビジネスのあり方を含む見直し
- テクノロジーを活用した更なる効率化

# 2018年度 業績・配当（予想）：

親会社株主に帰属する  
当期純利益

520億円

単体当期純利益

320億円

期末配当

未定



